令和８年度

札幌市立太平南小学校

全国学力・学習状況調査結果を説明する資料

向寒の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動に対しまして温かいご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、今年の４月に全国の６学年を対象に標記の調査を実施し、７月には、調査結果の個人票を配付しました。本校でも結果を分析しましたのでお知らせします。なお、本調査は、６年生を対象に実施されたものですが、ここで得られた成果や課題については、学校全体のものとして捉え、今後の授業改善に生かしていきたいと考えております。今後とも保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

1　本調査の目的

・全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、改善を図ること。
・各教育委員会、学校等が全国的な状況との比較を通して、自校の教育の成果や課題を見いだし、改善を図ること。

2　「教科に関する調査」について

①身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識･技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等
※上記①と②を一体的に問うこととする

分析では、領域（事項）ごとに自校の平均正答率と全国平均を比較します。比較については、全国平均との差を下表の通り、「3%の幅」で区切って表記します。

全国平均 ＋3.1 以上	全国平均 ＋3.0%以内	全国平均	全国平均 －3.0%以内	全国平均 －3.1%以下
上回っている	ほぼ同程度であるが やや上回る	ほぼ同程度である	ほぼ同程度であるが やや下回る	下回っている

今年度の調査は、「国語」「算数」の2教科で行われました。2教科を領域別に分けて、結果から分かる課題とその改善の方向について記しております。なお、課題の欄には、●、○、◎と分けて表記しております。●は課題、○は成果、◎は高い成果という意味合いで分類しております。また、全国平均より上回っている項目にも●がある場合がございますが、領域を総合で判断すると「上回っている」となるが、一部、課題もあった場合に限り、●で表記しております。

3「生活習慣や学習状況に関する児童質問紙調査」について

73の質問に対して、児童が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答したものを「肯定的な回答」とし、全国と比較して肯定的な回答の割合が高いものと低いものについてお知らせします。

結果と考察におきましては、児童質問紙調査全体から分かった結果や今後の指導の方向性について触れております。

4 その他

本校の令和8年度全国学力・学習状況調査の結果につきましては、本校ホームページでもご覧いただけます。

小学校国語

教科に関する調査の結果及び改善の方向について

太平南小学校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域・内容】 ～知識及び技能～ □言葉の特徴や使い方に関する事項 平均正答率は、全国平均を**ほぼ同程度であるが、やや上回っている**。	●話や文章の種類とその特徴について理解すること。 例）「問いと答え」「事例と主張」「理由と根拠」など文章の構造を捉える。	○文章の構造の可視化および表現活動（書く・話す）との結び付け →文章を整理する際に段落構成シート、クラゲチャート、ベン図などを活用し、文章の骨組みを視覚化する学習を取り入れる。 →読む活動とあわせて表現活動（書く・話す）を取り入れることで、文章構造への理解を深める。
□情報の扱いに関する事項 平均正答率は、全国平均を**ほぼ同程度であるが、やや上回っている**。	●考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報との関係について理解すること。 例）文章の文脈を踏まえ、あとに続く文として最もふさわしいものを一つ選ぶ。	○文章構造の視覚的な理解と接続語に着目した読み取りの工夫 →文章を読んだ後に、「主張（考え）」を一番上に置き、その下に「理由」や「事例」を配置するピラミッド構造を用いて情報を整理する。 →「例えば（事例）」「なぜなら（理由）」「つまり（まとめ）」などの接続語にマークを付け、情報の役割を判別する学習を取り入れる。
～思考力・判断力・表現力等～ □話すこと・聞くこと 平均正答率は、全国平均を**ほぼ同程度であるが、やや上回っている**。	●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 例）提示された資料から必要な情報を選び出し、自分の考えの根拠として文章を書く。	○資料読み取りと表現スキルの育成 →資料から読み取れること（事実）と自分の考え（意見・解釈）を区別して整理できるよう指導する。 →資料から読み取った情報の言い換えや強調、他の情報との比較など、表現の工夫に取り入れるよう指導する。
□書くこと 平均正答率は、全国平均を**上回っている**。	◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 例）目的や根拠に応じて、文章から適切に引用し、自分の考えが効果的に伝わるように文章の組み立てや表現を工夫する。	○表現の工夫と要点の絞り込み（引用）の強化 →分析・要約・反論・補強に使う表現（例：「この○○から分かるように～」「この○○という部分に注目すると～」など）を活用する練習を行う。 →文章をそのまま書き写すのではなく、自分の意見と密接に関わる部分を必要最小限に絞り込んで引用する練習を行う。
□読むこと 平均正答率は、全国平均を**ほぼ同程度であるが、やや上回っている**。	●目的に応じて、必要な情報を見付けること。 例）提示された条件に合う答えを資料の中から探して選ぶ。	○目的に合わせた読み方の工夫の強化 →問い（探すべき情報）やキーワードに着目しながら読む習慣を身に付けさせる。 →見出しや小見出し、図表などのレイアウトから、文章全体の構造を捉える練習を取り入れる。

小学校算数

教科に関する調査の結果及び改善の方向について

太平南小学校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域・内容】 □数と計算 平均正答率は、全国平均を**ほぼ同程度であるが、やや上回っている**。	●異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述すること。 例）7/3 と 7/4 のどちらの方が大きいかを判断し、その理由を説明する。	○単位分数と通分の理解の定着 →テープ図や円図などを活用して視覚的に比較させ、「分母が大きくなると１つのピースは小さくなる」ことを実感させる。 →単位分数の考え方を基に、分母を揃える（通分する）必要性を理解させる。
□図形 平均正答率は、全国平均を**上回っている**。	●立方体の体積の計算による求め方について理解すること。 例）一辺が 8cm の立方体の体積を求める計算式を書く。	○立方体の体積の概念と計算手法の視覚的・操作的な理解 →1 ㎤のキューブを底面に「8×8=64 個」並べ、それが「8 段重なるから 8×8×8」になる過程を操作や観察を通して体験的に学ばせる。 →代表的な誤答例（8×3 や 8+8+8 など）をあえて比較提示し、かけ算で求める意味の確実な定着を図る。
□測定 平均正答率は、全国平均を**上回っている**。	◎示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めること。 例）昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間を求める。	○図を活用した情報整理と調整力の育成 →単に立式するだけでなく、線分図や時間軸に表して条件を整理する習慣を身に付けさせる。 →「前半の時間を長くしたい場合、どこを削ればよいか」など、与えられた条件の中で調整・最適化を考える発展的な課題に取り組ませる。
□変化と関係 平均正答率は、全国平均を**上回っている**。	●基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶこと。 例）「赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1.5 倍」になっている図を二つ選ぶ。	○基準量の確実な理解と関係図（数直線・テープ図）の活用 →「もとにする量（基準量）」と「くらべる量」の言葉の整理を行い、図と言葉を結び付けて考える学習を丁寧に進める。 →数直線、テープ図、線分図などを目的に応じて効果的に活用できるよう指導する。
□データの活用 平均正答率は、全国平均と**ほぼ同程度であるが、やや下回っている**。	●示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述すること。 例）全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表から書き出す。	○複数のデータの相互関係への着目と矛盾修正の指導 →表の中の数に着目し、「合計の人数」や各項目の整合性を自ら確認する習慣を身に付けさせる。 →「どの項目に誤りがあるか」「数値のずれや矛盾はどこか」「どのように修正するか」という 3 点をセットで考え、説明する練習を繰り返し行う。

児童質問紙

特に顕著な傾向がみられた質問の結果及び改善の方向について

全国平均より肯定的な回答が上回っている項目

【自分自身・他者との関わりに関する質問】

〇朝食を毎日食べている。
〇毎日、同じくらいの時刻に起きている。
〇自分には、よいところがあると思う。
〇先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。
〇将来の夢や目標を持っている。
〇人が困っているときは、進んで助けている。
〇いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
〇困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
〇学校に行くのは楽しいと思う。
〇自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
〇あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う。
〇普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。

【学習に関する質問】

〇分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。
〇学校の授業以外に、普段、1 日当たりどれくらいの時間、読書をするか。(1 時間以上と回答した児童の割合)
〇あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(100 冊以上と回答した児童の割合)
〇あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図・表・グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。
(5 年生までに受けた授業について)
〇自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した。
〇課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
〇各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
〇自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていた。

〇学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。
〇学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
〇授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う。
〇先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。
〇総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
〇総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできている。
〇あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている。
〇学級会における学級の話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
〇道徳の授業では、自分で考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

(国語の)
〇授業の内容はよく分かる。
(5 年生までに受けた授業では)
〇先生はあなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこか伝えてくれた。
〇先生はあなたの学習のうまくできていないところはどこか伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれた。
〇文章などを利用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていた。
〇文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていた。

(算数の)
〇授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
〇5 年生までに受けた授業では、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていた。

(英語の)
〇勉強は得意だ。

全国平均より肯定的な回答が下回っている項目

【自分自身・他者との関わりに関する質問】

●普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下「スマートフォン等」）で SNS や動画視聴などをしているか。（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）（2 時間以上と回答した児童の割合）
●地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。

【学習に関する質問】

●学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（1 時間以上と回答した児童の割合）
●土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（1 時間以上と回答した児童の割合）
●昼休みや放課後に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）にどれくらい行くか。（週に 1 回以上と回答した児童の割合）
●新聞をどれくらい読んでいるか。（週に 1 回以上と回答した児童の割合）
●算数の勉強は得意である。
●算数の勉強は好きである。
●算数の授業の内容はよく分かる。
●5 年生までに受けた授業では、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えた。
●英語の勉強は好きである。
●将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい。

結果と考察

【自分自身・他者との関わりに関する質問】

〇自己肯定感・安定感の高さ
朝食の摂取や決まった起床時間など生活リズムが整っており、「自分によいところがある」「先生に認められている」「学校に行くのが楽しい」「幸せを感じる」といった項目が良好です。学校や学級が、児童にとって安心で安全な居場所（心理的安全性）となっていることが分かります。

〇多様性の受容と対話的風土
違った意見を考えることを楽しみ、他者の意見が否定されない環境が整っているため、互いのよさを生かしながら安心して学び合える基盤が築かれています。

〇規範意識と助け合い
いじめの絶対否定や困っている人を助ける意欲が高く、困りごとを大人に相談できる体制も機能しています。

●メディア利用時間の増加
学習目的以外のスマートフォンやゲーム等の利用時間が「2 時間以上」の割合が高い傾向にあります。生活リズム自体は保たれてはいますが、家庭での読書時間や学習の時間を確保するためにも、メディア利用のルールづくりについて、ご家庭と一緒に考えてまいります。

●地域・社会への参画意識の醸成
学級内での対話や助け合い意識は高い一方で、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という社会参画への関心には伸びしろがあります。学校での学びを地域や実社会へと広げる機会を増やしていきます。

【学習に関する質問】

〇探究的・協働的な学びの定着
総合的な学習の時間における ICT を活用した課題解決学習や、道徳・学級会での話合い活動、他者と協働して考えを深める活動が充実しています。また、国語科を中心に図や表を使って情報を整理し、自分の考えを根拠とともに表現する力が付いてきています。

〇きめ細やかな指導と振り返り
指導側（教師）による丁寧なフィードバック（良い点や課題・改善方法の提示、分かるまでの指導）が行われており、児童が学習の見通しや振り返りを行いながら主体的に取り組む姿勢が育っています。

●算数・英語における意識・態度の改善
国語への理解度が高い一方で、算数に対して「得意・好き・授業が分かる」という意識や、粘り強く解き方を試行錯誤する姿勢に課題が見られます。実生活や将来との繋がり（算数の有用性）を実感させるとともに、「できた」という達成感を味わわせる指導を強化していきます。同様に、英語に関しても好きという意識や将来の活用意欲を高める工夫を図ってまいります。

●家庭学習および読書・情報活用の習慣化
家庭での学習時間（平日・休日ともに 1 時間以上）や学校図書館の利用、新聞に触れる機会が少ない傾向が見られます。家庭にある読書環境や個人の端末活用スキルを生かしながら、授業と連動した読書推進や自律的な家庭学習の習慣化に向けて取り組んでまいります。